試験研究成果広報活動事業

愛媛県の水産業や、水産研究センターおよび栽培資源研究所における試験研究の現状と成果を広くＰＲし、水産業と水産研究に対する理解を得るとともに、生産者に対して研究成果の普及をおこなった。

Ⅰ　研究成果情報研修会

1　水産研究センター

⑴　グローバル・アクティビティ出張講義

日　時：令和６年５月２日（木）13:50～14:40
場　所：宇和島南中等教育学校
出席者：98 名
テーマ：「南予の水産業と水産研究センターの取組について」　（渡邉センター長）

⑵　獣医学部企業情報特論出張講義

日　時：令和６年６月７日（金）15:00～16:30
場　所：岡山理科大学今治キャンパス
出席者：150 名
テーマ：「スマに代表される新魚種開発の現状と課題」（渡邉センター長）

⑶　スーパーサイエンスハイスクール出張講義

日　時：令和６年９月 12 日（木）14:45～16:05
場　所：宇和島東高校
出席者：50 名
テーマ：「南予の水産業と水産研究センターの取組みについて」（渡邉センター長）

⑷　農業研究開発・産業創成特別講義

日　時：令和６年 10 月 24 日（木）14:30～16:00
場　所：愛媛大学農学部　多目的ホール
出席者：60 名
テーマ：「愛媛県の水産業と技術開発」（中村室長）

⑸　研究成果報告会

日　時：令和７年３月 12 日（水）13：30-16：00
場　所：愛媛県南予地方局
出席者：41 名
テーマ：「スマート養殖センサーを用いた尾数管理 による養殖経営ＤＸ」（株式会社アクアフュージョン　松尾行雄社長
「令和 6 年の宇和島湾における *Karenia mikimotoi* の動向」（神野研究員）
「マサバ養殖実証試験の進捗と課題」（石川研究員）
「マサバに対するレンサ球菌の水温別病原性」（原川主任）
「感染症に強いアコヤガイの作出」中岡主任研究員）

2　栽培資源研究所

⑴　今治自然科学教室

日　時：令和６年８月５日（月）10:50-14:20
場　所：栽培資源研究所
出席者：118 名
テーマ：「愛媛県の漁業と水産研究センターの仕事」（谷川室長）

⑵　愛媛大学大学院農学研究科・愛媛県農林水産研究所合同研修会

日　時：令和６年９月６日（水）13:30-16:45
場　所：愛媛大学農学部
テーマ：「アサリ資源回復技術高度化試験について」（喜安主任研究員）

⑶　ノリ養殖技術研修会

日　時：令和６年９月 18 日（水）13:30-16:00
場　所：愛媛県東予地方局西条第２庁舎
出席者：30 名
テーマ：「三重県の黒ノリ養殖におけるスマート化の取組」（三重県水産研究所　岩出将英主幹研究員）
「高水温耐性クロノリについて」（喜安主任研究員）

⑷　お仕事フェスタ

日　時：令和７年３月８日（土）10:00-16:00
　　　　３月９日（日）10:00-16:00
場　所：アイテムえひめ
来場者：196 名（当所ブース来訪者の２日間計）
内　容：「水産業関連研究者」として愛媛県の水産業や研究所の業務について説明（谷川室長、槇研究員、三門研究員）

Ⅱ　「水産研究センターだより第 17 号」の作成・配布

次の内容で令和７年３月に作成し、関係者に配布するとともにホームページに掲載した。

貝毒による中毒事故防止のために（萓田研究員）
二枚貝の陸上養殖の可能性について（森研究員）
2024 年に見られたレンサ球菌症の発生状況（鈴川室長）
アオノリ養殖の増産への取り組み（黒野主任研究員・喜安主任研究員）
えひめの超高級魚❝シロアマダイ❞（白甘鯛）（千葉室長）
新施設紹介

Ⅲ　県民とのネット交流　（ホームページの運営）

ホームページを適宜更新し、県民、漁業者等へ最新情報を提供することにより、水産および試験研究についての理解を深めてもらうことに努めた。また、ノリ・アオノリ養殖期間中の水温・栄養塩濃度など、漁業者等へ最新情報を提供した。

1　水産研究センターHPアドレス

https://www.pref.ehime.jp/soshiki/99/

2　栽培資源研究所HPアドレス

https://www.pref.ehime.jp/soshiki/100/

Ⅳ　見学者・視察者等への対応

水産業および試験研究についての理解を深めてもらうため、水産研究センターを来訪した見学者・視察者等への対応をおこなった。来訪者数は水産研究センターが112名、栽培資源研究所が843名であった。（表1、2）。

表1　見学者への対応（水産研究センター）

No	月　日	来　訪　者	人数	備　考
1	6月4日	県議会議員ほか	16	
2	7月5日	山梨県商工会議所ほか	12	
3	7月26日	宇和島市ほか	2	
4	8月2日	国会議員ほか	16	
	8月26～28日	北里大学	1	インターンシップ
5	8月7日	企業視察	2	
6	8月27日	福井県立大学	1	
7	9月3日	伊予銀行	5	
8	9月3日	四国電力ほか	9	
9	9月4日	北灘小学校	13	
10	9月25日	日本銀行	2	
11	10月18日	結出小学校ほか	30	
12	11月6日	企業視察	2	
13	2月17日	茨城県	1	
		計	112	

表2　見学者への対応（栽培資源研究所）

No	月　日	来　訪　者	人数	備　考
1	4月17日	新田青雲中学校	51	
2	4月25日	木の実幼稚園	100	
3	5月16日	松前小学校	130	
4	5月16日	由並小学校	25	
5	5月22日	岡田小学校	95	
6	5月31日	北山崎小学校	40	
7	7月22日	個人	4	
8	8月2日	天使幼稚園児童クラブ	16	
9	8月5日	今治自然科学教室	120	
10	8月8日	岡山理科大学獣医学部	9	
11	8月14日	個人	4	
12	8月14日	個人	2	
13	11月7日	南山崎小学校	40	
14	11月30日	愛媛大学理学部	23	
15	2月3日	個人	2	
16	3月6日	北伊予小学校	87	
17	3月10日	いよし健康づくりの会	80	
18	3月13日	大野ヶ原小学校	15	
		計	843	

Ⅴ　インターンシップ等の受け入れ

水産研究センター（栽培資源研究所）の業務を体験してもらい、センターの業務や水産業についての理解促進を図るとともに、将来の職業選択に役立ててもらうため、大学・大学院生のインターンシップや地元中学校の職場体験を積極的に受け入れた（表1）。

表1　インターンシップ等の受け入れ状況

（栽培資源研究所）

階　層	校　数	人　数	備　考
大学・大学院	2	2	
中学校	2	5	

水産関係試験研究機関一般開放事業

地域に密着した試験研究を推進し、あわせて研究成果の普及と水産への理解の浸透を図るため、一般県民に施設を開放する交流事業（通称「ふれあい魚ッチング」）及び試験船に乗船・航海する体験学習を開催した。

Ⅰ　ふれあい魚ッチングの開催

水産研究センター及び栽培資源研究所の施設の一部を開放して、試験研究や業務の内容について理解を深めてもらうことを目的とした。

水産研究センターと栽培資源研修所の2か所で同時開催し、合計で300名の来場者を受け入れた。

1　日　　時　　令和6年7月28日（日）10時～15時

2　場　　所　　水産研究センター（宇和島市）及び同栽培資源研究所（伊予市）

3　来場者数　　合計300名（水産研究センター90名、同栽培資源研究所210名）
大人144名（水産研究センター44名、同栽培資源研究所100名）
子供156名（水産研究センター46名、同栽培資源研究所110名）

4　内　　容

⑴　水産研究センター（宇和島市）

1）相談コーナー（一日相談室）

水産業や海に関する質問に答える相談コーナーを設けた。

2)　展示コーナー

①　常設展示

水のない水族館、漁業形態模型、真珠の養殖過程、魚介類の種苗生産過程、漁業生産統計などの展示をおこなった。

②　研究成果パネル展示

水産研究センターの業務内容や各種試験研究成果を増養殖分野と資源環境分野に分けてパネルで紹介した。

3)　体験コーナー

①　顕微鏡観察

海水中のプランクトンや魚の稚魚、エサ生物などを顕微鏡で観察した。

②　工作・実験コーナー

海藻おしばを使ったしおりや葉書づくり、スライムづくり、ちりめんモンスターなどをおこなった。

③　ふれあい水槽

地先に生息する魚介類を直接手に触れることのできる水槽を屋外に設置した。

④　給餌体験

水産研究センターの海面筏で飼育されている養殖魚に配合飼料を給餌した。

⑤　放流体験

水産研究センターの船着き桟橋でマダイ稚魚を放流した。

4)　来場者の感想

聞き取りでは、来場者から魚の餌やり体験や海藻を使ったしおり作り、ちりめんモンスターなどが好評であった。

⑵　栽培資源研究所（伊予市）

1）相談コーナー（一日相談室）

水産業や海に関する質問に答える相談コーナーを設けた。

2)　展示コーナー

①　パネル展示

栽培資源研究所の業務内容や試験研究成果、魚介類の生態写真等をパネルで紹介した。

②　水槽展示

当研究所で生産したキジハタ、トラフグ、ヒラメや、瀬戸内海に生息するメバル、カワハギなどの魚介類を屋内の水槽で展示した。

③　常設展示

水のない水族館、漁業形態模型、漁具展示、魚介類標本展示、おさかなクイズなどを行った。

3)　体験コーナー

①　海藻おしば教室

海藻おしばを加工して、しおりやフォトスタンドを作成した。

②　ミクロの世界（顕微鏡観察）

プランクトンなどの顕微鏡観察を行った。

③　チリメンモンスター探し

シラスと一緒に漁獲される、他の水産生物の子供などを探し、観察・分類した。

④　ふれあい水槽

地先に生息する魚介類を直接手に触れることのできる水槽を屋外に設置した。

⑤　トラフグの放流体験

希望者を対象に、森漁港で、午前・午後の2回、トラフグ稚魚の放流を実施した。

⑥　水中ドローンの操縦体験

希望者を対象に、陸上水槽内で水中ドローンの操縦体験会を、午前・午後の2回実施した。

4)　アンケートの実施

来場者にアンケートを依頼し、68名から回答を得た。その結果を表1に示した。

表1　アンケート結果（栽培資源研究所）

（回答数68）

年齢	就学前	22
	小学生	36
	中学生	0
	16～19	0
	20～39	24
	40～59	13
	60～	9
住所	伊予市	34
	松山市	19
	松前町	9
	東温市	0
	砥部町	3
	大洲市	0
	その他	3
誰と来たか	ひとりで	0
	家族で	66
	友人と	6
	その他	0
初めてか	初めて	33
	来たことがある	35
	ふれあい魚ッチング	33
	体験学習	2
	見学	4
	相談	0
	その他	5
何で知ったか	広報誌	7
	ホームページ	9
	知人・友人	14
	学校・幼稚園・保育園	32
	テレビ・ラジオ	0
	その他	5
どうだったか	おもしろかった	57
	まあまあおもしろかった	10
	おもしろくなかった	0
来年もきたいか	はい	65
	いいえ	0
おもしろかったコーナーは	スライドショー	4
	写真パネル（談話室）	7
	研究紹介（水産教室）	7
	押し葉工作（水産教室）	35
	水のない水族館？展示物	14
	顕微鏡観察・展示室	23
	各種展示物・図書	4
	タッチ水槽	48
	ヒラメ稚魚放流	30
	水槽展示（実験棟）	22
	水中ドローン操縦体験	15
	チリメンモンスター探し	40
	その他	1
仕事内容がわかったか	よくわかった	24
	まあまあわかった	36
	よくわからなかった	2

Ⅱ　体験学習の開催

一般公募した県民の方に海洋調査等を体験してもらうことにより、試験研究業務への理解の促進に努めた。

1　日　　時　　令和6年8月3日（土）9時～12時

2　場　　所　　宇和島市坂下津～野島周辺海上（水産研究センター）

伊予市沖合及び研究所内（栽培資源研究所）

3　参加者数　　合計48名（水産研究センター31名、同栽培資源研究所17名）

大人22名（水産研究センター13名

同栽培資源研究所9名）

子供26名（水産研究センター18名

同栽培資源研究所8名）

子供は中学生以下

4　内　　容

(1)　水産研究センター（宇和島市）

参加者は試験船「よしゅう」に乗船し、宇和島湾で次の観測、調査を体験した。

1)　海洋観測

航海計器類の説明を受けた後、操船を体験し、気象（気温、気圧、雲量、風向風速等）および海象（波浪、うねり、水色、流向、流速、透明度）の観測や採水を用いた水温、溶存酸素量の測定、CTD観測による深度別水温、塩分の観測とデータ採取を行った。

2)　生物採取

調査船からプランクトンネットを使って垂直曳きした海水を持ち帰り、実体顕微鏡でプランクトンを観察した。

(2)　栽培資源研究所（伊予市）

参加者は調査船「ゆり」に乗船し、栽培資源研究所沖合の伊予灘で次の観測、調査を体験した。

1)　海洋観測

伊予市沖合で気象・潮流観測、水質調査等を行った。

2)　生物採取

調査船からプランクトンネットを使って垂直曳きした試料を持ち帰り、顕微鏡でプランクトンを観察した。

3)　アンケート調査

アンケート調査を実施し、参加者（16名）から回答を得た。結果を表2に示した。

表2　乗船体験学習アンケート調査結果（栽培資源研究所）（回答数16）

この研究所に来られたのは初めてですか	初めて	12
	来たことがある	4
体験学習を何で知りしりましたか	県などの広報誌	8
	ホームページ	2
	新聞などのちらし	1
	知人・友人から	4
	学校で	4
	テレビ・ラジオ	0
	その他	0
体験学習の内容は理解できましたか	よく理解できた	16
	少し理解できた	0
	あまり理解できなかった	0
	理解できなかった	0
どんなところが面白かったですか（いくつでも）	船にのったこと	13
	機器類で観測	5
	透明度の測定	5
	プランクトン採集	7
	けんびきょう観察	13
	その他	2
職員の説明はどうでしたか	よくわかった	16
	すこしわかった	0
	あまりわからなかった	0
期待していた体験ができましたか	十分できた	15
	少しできた	0
	あまりできなかった	0
	できなかった	0
研究所のしごとがわかりましたか	よくわかった	13
	少しわかった	3
	わからなかった	0
このような「体験学習」の開催についてどう思いますか	もっと開いてほしい（年　　回）	2回：7　3回：1　6回：1　12回：1　13回：2
	年1回程度でよい	3